

正しい知識と身近な行動で、世界的な脅威から人類を救う 薬剤耐性(AMR)対策に関する取り組みについて

2017年11月「薬剤耐性(AMR)対策推進月間」(日本)
2017年11月13日(月)～11月19日(日)「世界抗菌薬啓発週間」

～薬剤耐性菌を増やさないために、皆さんができること～

国立国際医療研究センター病院 AMR臨床リファレンスセンター(厚生労働省委託事業)は薬剤耐性(AMR)対策を推進するため、AMR対策アクションプランに基づく取り組みを行う目的で2017年4月に設立しました。AMRに関する情報を広く集め問題を分析し、一般市民および医療従事者の方々にAMR対策に必要な知識を伝えるべく、2017年11月13日(月)～11月19日(日)の「世界抗菌薬啓発週間」をはじめ、日本では11月を「薬剤耐性(AMR)対策推進月間」と位置づけ、教育支援事業やセミナーの実施、啓発サイト開設など、さまざまな取り組みを実施しています。

薬剤耐性(AMR)とは？

薬剤耐性(AMR: Antimicrobial Resistance)とは、病原体が変化して抗菌薬・抗生物質が効かなくなることです。抗菌薬・抗生物質の使用に伴ってAMRが起こることがあります。何も対策を取らず、現在のペースで増加した場合、2050年には1,000万人(3秒に1人※)の死亡が想定され、がんによる死亡者数を上回ることが指摘されています。

※英国薬剤耐性に関するレビュー委員会(オニール委員会)第一次報告(2014年12月)

皆さんに知ってほしいAMR防止3カ条

🔍風邪に抗菌薬は効きません

“かぜ”の原因の多くはウイルスであり、抗菌薬・抗生物質は効きません。

🔍処方された抗菌薬は医師の指示通り服用しましょう

処方された飲み方を守ることは、あなたの病気を確実に治すため、薬による副作用を減らすため。

🔍基本的な感染対策をしましょう

日常の手洗いを心がけ、必要なワクチンはきちんと接種し、感染症の予防に努めましょう。

正しい知識と簡単に実行できるアクションを起こすことで、薬剤耐性による死亡者数を減少させ、未来の医療のために抗菌薬・抗生物質を残すことができるのです。

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

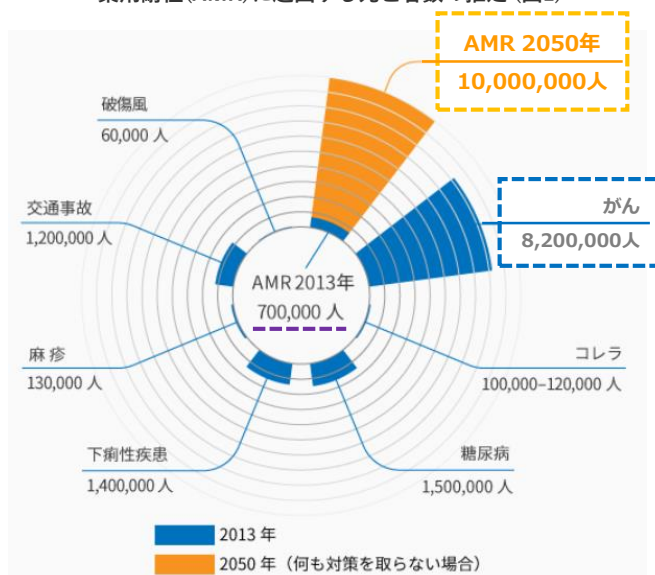
AMR臨床リファレンスセンター広報事務局 担当：小石、佐藤、木下
TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-Mail: info@kartz.co.jp

薬剤耐性(AMR)の世界的脅威とは

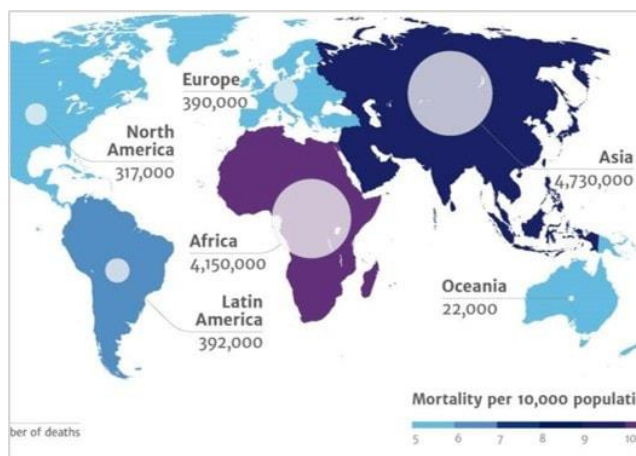
薬剤耐性(AMR)によって約30年後には世界で1,000万人が死亡!?

近年、抗菌薬が効かない薬剤耐性(AMR)をもつ細菌が世界中で増えています。すでにAMRに起因する死亡者数は年間70万人とされていますが、何も対策を講じない場合、2050年には世界で年間1,000万人の死亡が想定され、現在のがんによる死亡者数を超える、とした報告があります。

薬剤耐性(AMR)に起因する死亡者数の推定 (図1)



薬剤耐性(AMR)に起因する死亡者数の推定 (世界5大陸別:図2)



【図1・図2】

Antimicrobial Resistance: Tackling a crisis for the health and wealth of nations The Review on Antimicrobial Resistance
Chaired by Jim O'Neill December 2014 を改変

AMR対策推進月間・世界抗菌薬啓発週間など今後の予定について

薬剤耐性(AMR)に係る全国的な普及啓発活動を推進するため、毎年11月を「薬剤耐性(AMR)対策推進月間」に設定、今年は2017年11月13日(月)～11月19日(日)が「世界抗菌薬啓発週間」となります。政府機関だけではなく民間の様々な団体が一体となって、普及啓発に係る取り組みを重点的に実施していくとともに、同月間を通じて国民一人ひとりの主体的な取り組みを促していきます。

AMR臨床リファレンスセンターでは、同月間に向け、一般市民および医療従事者の方々にAMR対策に必要な知識を伝える活動を強化し、教育支援事業やセミナー、啓発サイト開設、医療従事者に対する講習・研修など、多岐にわたり実施してまいります。



▲AMR対策啓発用A2ポスター

機動戦士ガンダム ©創通・サンライズ

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

AMR臨床リファレンスセンター広報事務局 担当：小石、佐藤、木下
TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-Mail: info@kartz.co.jp

薬剤耐性(AMR)アクションプラン(2016-2020)

薬剤耐性(AMR)対策アクションプランの背景

人に対する抗微生物薬の不適切な使用が背景となり、薬剤耐性菌が世界的に増加している一方、新たな抗菌薬の開発は減少しています。さらに、動物における薬剤耐性菌は動物分野の治療効果を減弱させるほか、畜産物等を介して人に感染する可能性があります。これら薬剤耐性菌の問題は国際社会でも大きな課題となっています。

2015年5月の世界保健機関(WHO)総会では、薬剤耐性(AMR)に関するグローバル・アクション・プランが採択され、加盟各国は2年以内に自国の行動計画を策定するよう要請されました。また、同年6月のG7エルマウ・サミットではWHOの世界行動計画の策定を歓迎するとともに、人と動物、環境等の保健衛生の一体的な推進(ワンヘルス・アプローチ)の強化と新たな抗生物質、ワクチン新薬などの研究開発に取り組むことを確認しています。

これを受け、わが国では2015年11月に「薬剤耐性(AMR)タスクフォース」を厚生労働省に設置し、同年12月「国際的に脅威となる感染症対策閣僚会議」の枠組みの下に「薬剤耐性に関する検討調整会議」を設置しました。そこで関係省庁が議論及び調整を行い、2016年4月5日、わが国として初めての薬剤耐性(AMR)対策アクションプランが決定されました。

薬剤耐性(AMR)対策アクションプランの内容

WHOの“薬剤耐性に関するグローバル・アクション・プラン”の5つの目標を参考に、関係省庁・関係機関等は2016年から2020年までの5年間に、ワンヘルス・アプローチの視野に立ち、協働して集中的に取り組むべき対策をまとめました。日本は国際社会に対してAMR対策の主導力を発揮すべく、6つ目の項目として国際協力を加え、合計6つの分野に関する「目標」を設定しました。その各分野の「戦略」及び「具体的な取組」等を盛り込んだアクションプランが策定されました。

▼薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン

分野	目標
1 普及啓発・教育	国民の薬剤耐性に関する知識や理解を深め、専門職等への教育・研修を推進
2 動向調査・監視	薬剤耐性及び抗微生物剤の使用量を継続的に監視し、薬剤耐性の変化や拡大の予兆を適確に把握
3 感染予防・管理	適切な感染予防・管理の実践により、薬剤耐性微生物の拡大を阻止
4 抗微生物剤の適正使用	医療、畜水産等の分野における抗微生物剤の適正な使用を推進
5 研究開発・創薬	薬剤耐性の研究や、薬剤耐性微生物に対する予防・診断・治療手段を確保するための研究開発を推進
6 国際協力	国際的視野で多分野と協働し、薬剤耐性対策を推進

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

AMR臨床リファレンスセンター広報事務局 担当：小石、佐藤、木下
TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-Mail: info@kartz.co.jp

AMR臨床リファレンスセンターの取り組み

薬剤耐性(AMR)の問題は、このまま対策を行わないと2050年にはがんよりも死亡者数が増加し、世界的な危機になるといわれています。薬剤耐性菌が増加し続ければ、医療の継続が困難になり、早急に対策が必要です。そのため、日本政府による薬剤耐性(AMR)アクションプランが2016年4月に発表されました。AMR臨床リファレンスセンターは、AMR対策を推進するため、薬剤耐性(AMR)アクションプランに基づく取り組みを行う目的で厚生労働省の委託事業として2017年4月に設立しました。

当センターではAMRに関連したサーベイランス(監視システム)構築や、啓発に関わる情報の提供や教育、研究を行っています。一般の方や医療従事者に向けた啓発のための情報サイトの開設や、説明を視覚化したインフォグラフィック、動画の公開、セミナーの開催や子供たちへの出張授業、医療従事者に対しての講習・研修も実施していく予定です。

ひとりでも多くの方にAMR対策の重要性を効果的にわかりやすく伝え、世界各国でAMR対策が推進され、未来に使える抗菌薬を残すことが私たちの使命です。

一般市民・医療従事者向けセミナーの実施

▼AMR対策臨床セミナー



▼「感染症と薬について学ぼう」出張授業



▼小児医療基礎講座



薬剤耐性(AMR)対策活動ツール

▼薬剤耐性(AMR)対策啓発サイト



<http://amr.ncgm.go.jp>

▼インフォグラフィック



<http://amr.ncgm.go.jp/infographics/>

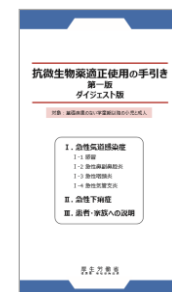
▼AMR対策啓発用ポスター



機動戦士ガンダム©創通・サンライズ

<http://amr.ncgm.go.jp/medics/2-7.html>

▼抗微生物薬適正使用の手引き 第一版(ダイジェスト版) (厚生労働省・AMR臨床リファレンスセンター)



http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/tebiki_1.pdf

AMR臨床リファレンスセンターについて

AMR臨床リファレンスセンターの役割は、AMRに関する情報を広く集め問題を分析し結果をわかりやすくお示しすること、国民の皆さんと医療従事者の方々にAMR対策に必要な知識をお伝えすることです。私たちや子供達が安心して暮らせる環境を作るために、AMRの問題に取り組んでまいります。

AMR臨床リファレンスセンター長 大曲 貴夫



取材・インタビュー等も承っております。

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

AMR臨床リファレンスセンター広報事務局 担当：小石、佐藤、木下
TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-Mail: info@kartz.co.jp